植木の剪定について

（一社）石川県造園緑化建設協会

剪定の目的

人間社会と樹木が共存していけるようにするため。

枝の越境や伸びた枝が生活の障害になったときに剪定が必要である。

植物そのものが環境改善効果や人間への心理効果などのメリットがあるといわれていますが乱れた樹形の樹木は不快感である。

心地の良い空間を維持していくために必要です。

害虫を防除するために必要である。

繁りすぎて見通しの悪くなった樹木は蜂が巣をつくったり毛虫などがつきやすくなります。

剪定の種類

茂りすぎると通風や採光が悪くなり、樹形が乱れたり、樹勢が弱ったりする上に、病害虫の発生源になります。限られたスペースの中では整枝・剪定は欠かせません。整枝・剪定は樹形を整えるだけでなく、新芽の発生を促して花つきをよくし、病害虫の予防にもなります。剪定の種類について説明いたします。

- 切り戻し剪定：枝を半分から3分の1ほどのところで切り、ひとまわり小さくする剪定
- 整姿剪定：不ぞろいな枝を切って形を整える剪定
- 整枝剪定：よい枝ぶりにするために樹木の骨格を作る剪定
- 切り詰め剪定：花つきをよくするために育ち過ぎた樹形を縮める剪定
- 枝抜き剪定：樹形を整えるためノコギリを使って枝を切る剪定
- 芽摘み：不要な芽を摘み取る剪定
- 花柄摘み：咲き終わった花を摘み取る剪定
- 刈り込み：生垣などのように全体を均一に刈り込んで整える剪定

・夏剪定

その名のとおり、夏におこなう剪定のことです。夏は枝葉がぐんぐん伸びる季節であるため、伸びすぎた枝葉を切り落とすことで風通しをよくすることができます。風通しがよくなるだけでなく、日当たりもよくなるため、植物が光合成しやすい環境を整えることができるのです。また、病害虫予防や、台風で枝が折れることを防ぐ効果もあります。

常緑広葉樹（シラカシ・タブノキ・ヤマモモ・クスノキ・モチノキ・ウバメガシなど）
常緑針葉樹（クロマツ・アカマツ・マキ・ヒマラヤスギ・ヒノキなど）

4月に古葉が抜け新緑に入れ替わりから7月にかけ新緑が伸び芽が固まったときが基本剪定となる切り詰め剪定の適期です。7月～10月くらいにかけ行います。
枝透かしや強剪定を行いたい場合は新芽が活発に伸びる5月～6月がよいでしょう。常緑広葉樹は特に寒さに弱いため冬の剪定はよろしくありません。
石川県では主に雪吊の対象となる樹木がこの常緑広葉樹と常緑針葉樹です。7月～10月くらいにかけ剪定をして11月から12月に雪吊をします。

・冬剪定

その名のとおり、冬におこなう剪定のことです。冬に休眠時期に入る植物なら、夏よりも大掛かりな剪定をおこなってもかまいません。休眠時期は、枝葉をたくさん切り落としても樹木に与えるダメージを最小限におさえられるため、植物に負担がかかりにくいとされているからです。冬の時期に植物の育成にとって邪魔な枝葉は大幅に減らしておくことによって、活動を再開し始める春への準備をするという目的があります。

落葉広葉樹（モミジ・ヤマボウシ・ケヤキ・ハナミズキ・モクレンなど）
落葉針葉樹（メタセコイヤ・ラクウショウ・イチョウなど）

11月に古葉が抜け翌年の新緑の4月までの間樹木に葉をつけない状態のときに行う剪定です。このタイミングで強剪定でも枝抜き剪定でも基本剪定でも行えます。

刈込剪定　生垣（例　レッドロビン・ツゲ・マキ・サザンカ・シルバープリペットなど）　低木寄せ植え（ツツジ類・ヒサカキ・ユキヤナギなど）

刈込は5月から10月までの間なら何度行っても構いません。刈り込めば刈りこむほど密になります。特に生垣は生長の早いものを選択するため何度もかるのが望ましいです。低木の寄せ植え刈込は花の時期を考慮しなければならない場合があり例えばツツジ類だと花の咲く直前と8月以降の刈込はしません。（翌年の花芽をつけるため）ツツジ類だと花の終わった直後のみの刈込が望ましいでしょう。

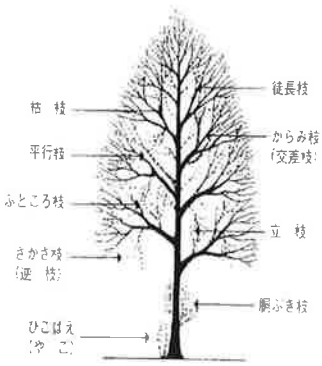
・剪定を行う必要性の低い樹木。自然樹形が一番よい状態の樹木（例　ソヨゴ・モミジ・サクラ・ケヤキ・カツラ・ハナミズキなど）

むやみに剪定を行うと樹形がくずれてしまう樹木があります。例にあげた樹木は無剪定が望ましいですが大きくなりすぎて越境した枝や枯枝などが発生した場合は影響の出た箇所の剪定を行ってください。特にケヤキ・モミジなどは1度ハサミを強く入れすぎてしまうと枝からからみ枝が翌年以降多数発生し毎年剪定を行わないと樹形を保てなくなります。

不要枝の種類

徒長枝　本年生枝、前年生枝の中で他の枝より異常に長く伸びる枝
ひこばえ　根元付近にある枝
胴ぶき枝　樹木の衰弱が原因で幹から発生した枝
枯枝　枯死した枝
からみ枝　ほかの枝に絡みついているような形になった枝
さかさ枝　枝の下や内側に向かってのびている枝
ふところ枝　副主枝よりも内側にある枝
平行枝　同じ方向に延びる上下に平行した枝
立枝　幹に平行して立ち上がっている枝

徒長枝、ふところ枝、立枝、さかさ枝、胴ぶき枝などはこれらの枝を利用して仕立てなおすこともある。特にふところ枝は必要枝となる可能性が高く重要である。



徒長枝
本年生枝、前年生枝の中で、他の普通の枝より異常に伸びる枝で、組織が軟弱なものが多い
土用枝（二番枝）
夏以降に伸びた枝で、徒長枝となりやすい
ひこばえ（やご）
根元または地中にある根元に近い部分から発生する枝
胴ぶき枝
樹木の衰弱が原因で、幹から発生した小枝
枯枝
枯死した枝

・形態からの呼称
からみ枝（交差枝）
他の枝に絡みついたような形になっている枝
さかさ枝（逆枝）
外側に伸びる性質に逆らい、枝の下や内側に向かって伸びる枝
ふところ枝
副主枝よりも内側にある弱小な枝
平行枝
同じ方向に伸びる上下に並行した枝
立枝
幹に並行して立ち上がっている枝

図　2　樹形を乱す要因となる枝の名称

1-3　整姿剪定

剪定には様々な目的がある。このうち、景の形成を目的とする剪定を一般に整姿剪定と称している。整姿剪定とは，一つ一つの枝を選んで切り取り、その樹種の持つ固有の美しい木姿に整えることを言う。

整姿剪定の手法には「切返剪定」、「切詰剪定」、「枝抜剪定」の３つがある。

(1)　切返剪定

切返剪定とは、枝抜きを行う際に、樹冠を一回り小さくするために、長い枝先を短い枝先に切り返すことを言い美しい樹形を一定の樹冠で維持するための基本技法である。

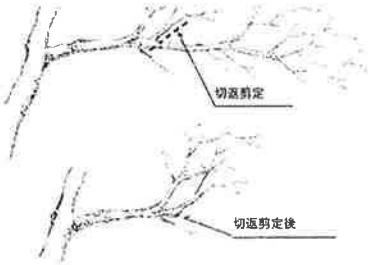


図　3　切返剪定

(2)　切詰剪定

切詰剪定とは、樹冠を揃えることを目的に、枝の途中で切断することを言う。定芽がある場合は、その直上で切断する。定芽がない場合は、そこから萌芽する新たな枝によって、樹冠づくりを行う。

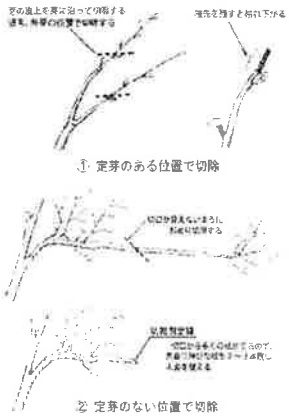


図　4　切詰剪定

(3) 枝抜剪定

枝抜剪定とは、それぞれの樹種本来の美しさを出すため、樹形を乱す不要枝を取り除き、枝葉のバランスや密度を整えることを言う。

なお、枝抜剪定の一つで、密度の高い混み枝や建築限界にかかる枝などを、幹の付け根のブランチカラーを残して鋸などを用いて、切り落とすことを「枝おろし」と言う。

1 被覆枝、発枝の少期

2 からみ枝の切除

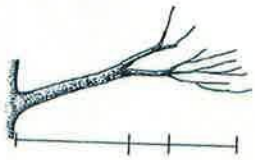
3 平行枝の切除

4 枝おろし

剪定のバランスの事例

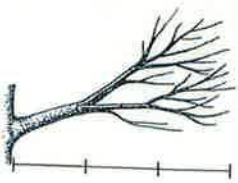
枝葉のバランス

【バランスの悪い例】



バランスが悪く芽を落としすぎの剪定の例です。翌年に方向の定まらない多くの枝を出し樹形を乱す原因となる剪定です。

【バランスの良い例】



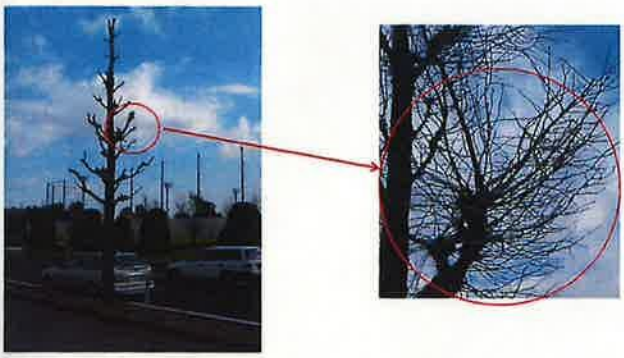
ユリノキ

バランスが良く芽をバランスよく均一に配分して残しているため翌年の新芽は均一に発芽し樹形の乱れが少ない剪定です。

強剪定　事例

樹形を乱す強剪定

強剪定は、不定芽や休眠芽から方向の定まらない多くの枝が乱立し樹形を乱す。



前ページでバランスの悪い例で出したものです。強剪定をむやみに行うと右の写真のようになります。また樹木を衰弱させる原因にもなります。強剪定はなるべく避けるようにしましょう。

常緑針葉樹剪定事例　クロマツ

剪定前

剪定後

右の写真のように徒長した枝を切り詰めていきます。

切り詰めた後右の写真のように。古葉をむしります。もみあげともいいます。

作業状況

常緑広葉樹剪定事例　シラカシ

剪定前　　剪定後

右の写真のように芽を割っていきます。

赤線の箇所などで切り詰めて長い徒長枝を落とします。

作業状況

落葉広葉樹剪定事例　ケヤキ

剪定前　　剪定後

作業状況

生垣・低木刈込剪定　事例

左写真のように繁ってきた生垣に刈込をして景観を維持していきます。放置していると道路や隣地に越境してしまいます。繁茂したまま放置していると蜂などが巣をつくりやすくなります。右の写真のような道具を使用して刈込ます。刈込の頻度は通常は年3回程度ですが生垣などに使われる樹木は生長が早いものが多いため4月～9月くらいまでの期間は何度刈りこんでもよいです。ツツジ類のなどは翌年の花芽を7月から8月頃までにつけるためその時期以降から翌年の花の時期までは刈込を避けましょう。もし刈りこんでしまうと花芽を落とすことになるため翌年は花が咲かなくなります。
右の一番下の写真はトピアリーと言って刈込でつくるアートです。このようなことも刈込でつくることもできます。

自然樹形（無剪定）事例

モミジの写真です。この某施設の樹木の維持管理を20年以上継続で行っていますがこのモミジを剪定したことは一度もありません。10年の間で枯枝撤去を数回だけ行った程度です。樹形を乱すような枝が無い場合は剪定を行わないという選択も大切です。むやみに強剪定を行うと樹形が余計乱れることがあります。

安全注意事項

剪定するときに用いるのが脚立ですが使用を誤ると大変危険です。危険なポイントとして

1.不安定な場所に設置しない。

2.不安定な体勢で作業しない。

3.天端の上に乗らない。

自宅の庭木を剪定する際は手の届く中木程度のものにしておき後はなるべく業者さんにお願いすることを薦めます。

4. えっ？「脚立」って危ないの？

○昨年、県内だけで2人が亡くなっている。

小松	三脚脚立を使用して地上約1.5メートルの高さから庇の内部の雨水排 水路のごみ取り作業中、脚立が倒れ、高さ3.26メートルの庇にぶら下 がった状態になり、その後、落下した際、頭部を打ち、5日経過後に死亡したもの。
金沢	高さ4.5mの天井の照明器具取替工事において、高さ2.6mの脚立を 用いて作業を行っていたところ、足を踏み外し墜落したもの。ヘルメットは着用していたが、墜落時は足元に転がっていたもの。

身近なモノでも、想像以上に危険なものがある。

ご清聴ありがとうございました